

スウェーデン マルメ研修に参加して

今回、初めて参加させていただきました。

2年前に当院の先生が2名参加し、その時の報告を聞き、いつか実際に自分の目で見てみたいと思っていました。

実際に、このコースを受講して、スウェーデンと日本の歯科衛生士の教育が卒業後のスタートラインからこんなにも違うのかと痛感したのと同時に、スウェーデンでは更に高度なものが歯科衛生士に求められていると感じました。

日本の歯科衛生士が少しでもスウェーデンの歯科衛生士に近づくようになるには・・・と考えると、スウェーデンで行われている PBL（問題解決型学習法）という方法は、とても有効な方法ではと感じました。私が勤務している医院には米国の歯周病と補綴の専門医の先生がいます。現在、勤務している先生や歯科衛生士は交代で専門医の先生の指導の元、症例検討をおこなっています。まだ始めたばかりで、担当の先生や歯科衛生士は準備がとても大変そうですが、これを続けていくと将来的にはスウェーデンの歯科衛生士に負けないくらいの知識が身につく、技術の向上に努め、自信を持ってリスクに応じてメンテナンスの内容を自分で考え患者教育を行い、患者さんに価値の提供ができるようになるのではないかと思います。責任は今まで以上に大きくなると思いますが、その分、仕事のやりがいや楽しみは増えていくような気がしました。また、スケーリング、SRP に関しては、これまで色々な先生から習ってきましたが、今回習った方法も知識や技術を習得すると、もっと幅が広がると思いましたので、一緒に働いているスタッフにも学んだ事を共有したいですし、実際にシャースティン先生のお話を聞いて欲しいです。チーム医療に関しては、常日頃、Dr・DH・DT を目指す学生の時からこのように教育を受けると、お互いの仕事の理解もでき、連携がとりやすくなるのではと感じました。現在、私は専門医のフロアに勤務させていただいています。スウェーデンでは先生の治療のアシスタントはデンタルナースという歯科助手が行っているとの事ですが、この研修を通して、私自身、将来的には口腔衛生部の歯科衛生士として働いてみたいので、いつでもその力を発揮できるよう、知識や技術の向上に努めていくと同時に、専門医療・総合診療・口腔衛生部とのチーム医療ができるよう、今は専門の元で頑張りたいと思います。

最後になりますが、今回、このような機会を与えていただいた事、研修をするにあたり様々な準備をしていただいた名鉄観光やオーラルケアの皆様、現地での通訳を丁寧にしていただいた先生方、同じ志で約1週間、共に一緒に勉強させていただいた日本全国から参加された先生や歯科衛生士さんや歯科助手さん、本当に有難うございました。

つきやま歯科医院：黒田 薫